

協議事項（１）

令和７年度地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統確保維持事業）の事業評価について

1 目的

備北バス株式会社が運行している地頭～古町～岡山線の現状は、乗降客が少なく赤字路線となっているため、国庫補助金、県補助金及び市補助金（高梁市・総社市・岡山市）によりその路線を維持しています。

備北バス株式会社が地域公共交通確保維持改善事業の国庫補助金による支援を受けるためには、総社市地域公共交通会議にて、補助対象バス路線の目標や必要性及び系統の維持について「総社市総合交通戦略」へ記載する必要があるため、令和７年６月２３日に承認を頂いたところです。

この度、令和６年１０月１日から令和７年９月３０日までの期間について、当該事業の実施状況等を振り返り評価し、その事業内容を国（地方運輸局）へ報告することが条件となっています。

2 協議事項

別紙報告書の内容により報告してよろしいか協議するものです。

3 提出期限

令和８年１月１６日（金）

4 事業報告書

別紙のとおり

令和7年度地域公共交通確保維持改善事業（地域間幹線系統確保維持事業）に係る事業評価

- 1 地域公共交通確保維持改善事業・事業評価（地域公共交通計画等に基づく事業）（別添1）
 - ・株式会社井笠バスカンパニー
 - ・下津井電鉄株式会社
 - ・中鉄バス株式会社
 - ・中鉄北部バス株式会社
 - ・備北バス株式会社
 - ・両備ホールディングス株式会社
 - ・琴参バス株式会社
- 2 事業実施と地域公共交通計画等との関連について（別添1－2）
- 3 地域公共交通計画（地域間幹線系統）の概要（別添3）

色づけをしている項目については、
色づけ箇所が当協議会の該当部分

地域公共交通確保維持改善事業・事業評価(地域公共交通計画等に基づく事業)

令和8年1月16日

協議会名: 総社市地域公共交通会議

評価対象事業名: 令和7年度地域間幹線系統確保維持費国庫補助金

①補助対象事業者等	②事業概要	③前回(又は類似事業)の事業評価結果の反映状況	④事業実施の適切性	⑤目標・効果達成状況	⑥事業の今後の改善点(特記事項を含む)
備北バス株式会社	高梁駅～塩坪～皆部	関係自治体と連携し、高校生を中心とした利用促進を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 輸送人員目標13,184人に対し、14,429人で目標を上回った。経常収支差額目標17,972千円に対し20,627千円(収支改善率△13.62%)と目標を下回った。(収支率24.85%)	当該路線の利用者の多くは、高校生及び中学生の通学利用であり、少子高齢化による利用者の減少傾向が進むなか、高梁市・真庭市と連携し利用促進に取り組み収支率25%台を目指していきたい。
	高梁駅～リハビリセンター～吉川	昨年度に引き続き高校生の通学補助を中心とした利用促進を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 輸送人員目標33,650人に対し、38,185人で目標を上回った。経常収支差額目標17,502千円に対し18,478千円(収支改善率△4.52%)と目標を下回った。(収支率45.62%)	当該路線の利用者の多くは、高校生の通学利用であり、少子高齢化による利用者の減少傾向が進むなか、高梁市・吉備中央町と連携し利用促進に取り組み収支率46%台を目指していきたい。
	地頭～古町～岡山	昨年度に引き続き往復利用割引運賃制度及びおかやま愛カードの広報を行い利用促進を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 輸送人員目標21,218人に対し、21,666人で目標を上回った。経常収支差額目標25,203千円に対し31,331千円(収支改善率△23.07%)と目標を下回った。(収支率28.25%)	当該路線は高梁市より岡山市への通院及び買い物を中心とした路線であり、今後も高梁市・総社市及び岡山市と連携し利用促進に取り組み収支率29%台を目指していきたい。
	地頭～古町～高梁駅	昨年度に引き続き高校生の通学補助及びおかやま愛カードの広報を中心とした利用促進を行った。	A 計画通り事業は適切に実施された。	B 輸送人員目標65,924人に対し、68,465人で目標を上回った。経常収支差額目標21,195千円に対し24,052千円(収支改善率△12.35%)と目標を下回った。(収支率42.28%)	当該路線の利用者は、高校生の通学と病院への通院及び買い物への利用が多く、今後も高梁市と連携し利用促進に取り組み収支率43%台を目指していきたい。

令和7年度 地域公共交通確保維持事業に係る定量的な目標及び実績一覧

(別紙1)

No.	運行予定者	運行系統名	沿線市町村	路線維持の目的	輸送人員(人)		経常収支差額			国庫補助額(千円)	
					目標(上回るべき値)	実績	R5実績(千円)	目標(千円)	R7実績(千円)		収支改善率(%)
1	株式会社井笠バスカンパニー	矢掛	笠岡市 矢掛町	矢掛町及び笠岡市北川・山口・吉田住民の笠岡市内、笠岡駅及び矢掛町内への通勤・通学等交通手段	51,782	65,495	37,975	37,595	46,158	△ 21.55	3,181.5
2		井原・福山	井原市 福山市	井原市内住民の福山市内、福山駅への通勤・通学等及び福山市住民の通勤・通学等交通手段	44,417	53,274	27,291	27,018	33,112	△ 21.33	922.5
3		井原	井原市 笠岡市	井原市内住民の笠岡市内、笠岡駅への通勤・通学等及び笠岡市内住民の井原市内への通勤・通学等の交通手段	169,531	155,807	30,153	29,851	51,172	△ 69.71	9,601.5
4		篠坂・福山	笠岡市 福山市	福山市への通勤・通学・通院	35,737	43,356	6,867	6,798	8,290	△ 20.72	15.5
(4系統) 小計					301,467	317,932	102,286	101,262	138,732		13,721
5	下津井電鉄株式会社	A-2岡山線	岡山市 倉敷市	JR駅より離れている地区住民の岡山市中心部、倉敷市児島地区への通勤・通学・買い物等	120,814	110,941	4,545	4,499	9,141	△ 101.12	4,013.0
6		D-19茶屋町線	岡山市 倉敷市	岡山市南区興除、倉敷市茶屋町地区住民の倉敷市中心部への通院・通勤・通学・買い物等	105,790	103,924	5,084	5,033	8,657	△ 70.28	2,800.5
(2系統) 小計					226,604	214,865	9,629	9,532	17,798		6,813
7	中鉄バス株式会社	(佐)リハビリ	岡山市 吉備中央町	吉備中央町住民の岡山市内高校、病院への通学、通院、買い物等	105,363	117,432	22,125	21,904	18,689	15.53	12,850.5
(1系統) 小計					105,363	117,432	22,125	21,904	18,689		12,850
8	中鉄北部バス株式会社	(イ)行方	津山市 奈義町	津山市、奈義町住民の津山市内高校や病院への通学・通院及び買い物等	59,737	71,174	31,691	31,374	33,563	△ 5.91	4,028.0
9		(高)勝山	岡山市 高梁市 真庭市 吉備中央町	真庭市住民の真庭市内高校への通学及び沿線住民の岡山市内病院への通院、買い物等	30,819	40,720	26,439	26,175	24,327	7.99	13,710.5
(2系統) 小計					90,556	111,894	58,130	57,549	57,890		17,738
10	備北バス株式会社	皆部	高梁市 真庭市	真庭市北房地域から高梁市内への通学、通勤、通院、買い物等の生活路線	13,184	14,429	18,154	17,972	20,627	△ 13.62	1,122.5
11		吉川	高梁市 吉備中央町	吉備中央町から高梁市内への通学、通勤、通院、買い物等の生活路線	33,650	38,185	17,679	17,502	18,478	△ 4.52	3,069.5
12		岡山	高梁市 総社市 岡山市	高梁市内から総社・岡山、総社市内から岡山への通院、買い物等の生活路線	21,218	21,666	25,458	25,203	31,331	△ 23.07	5,738.0
13		地頭	高梁市	旧川上町から高梁市内への通学、通勤、通院、買い物等の生活路線	65,924	68,465	21,409	21,195	24,052	△ 12.35	3,377.5
(4系統) 小計					133,976	142,745	82,700	81,872	94,488		13,307
14	両備ホールディングス株式会社	76・77西大寺～西大寺駅・神崎～牛窓	岡山市 瀬戸内市	瀬戸内市牛窓地区、岡山市神崎地区から岡山市西大寺地区及び中心部への通勤、通学、通院等の必要なアクセス	54,665	59,254	34,358	34,014	36,693	△ 6.80	7,395.5
15		217・219岡山駅～小串・上山坂～宇野駅前、たまの病院前	岡山市 玉野市	玉野市山田・上山坂・鉢立地区・岡山市小串・甲浦地区から岡山市岡南地区・岡山市中心部への通学、通勤、通院等のアクセス	139,525	126,020	令和6年度から路線見直し(延伸)	51,601	63,659	令和6年度から路線見直し(延伸)	21,829.5
16		119岡山駅～当新田・荘内支所～渋川三丁目	岡山市 玉野市	玉野市渋川、日比、和田、玉、玉原、荘内等各地区から岡山市南区芳泉地区及び中心部への通学、通勤、通院等のアクセス	109,290	120,311	10,812	10,704	7,249	32.95	3,403.5
17		152岡山駅～当新田～深山公園道の駅・深山公園入口	岡山市 玉野市	玉野市榎ヶ原地区等各地から岡山市芳泉地区及び中心部への通院、買い物利用、通勤、通学等のアクセス	77,295	76,462	21,938	21,719	15,936	27.36	4,269.5
18		154岡山駅～当新田・田井～玉野市役所前	岡山市 玉野市	玉野市宇野、田井、榎ヶ原地区等各地区から岡山市南区芳泉地区及び中心部への通学、通勤、通院等のアクセス	105,192	150,374	22,306	22,083	15,491	30.55	8,906.5
19		367岡山駅～当新田・荘内支所～宇野駅前	岡山市 玉野市	玉野市玉、玉原、荘内等各地区から岡山市南区芳泉地区及び中心部への通学、通勤、通院等のアクセス	79,810	96,892	14,395	14,251	9,753	32.25	5,866.0
(6系統) 小計					565,777	629,313	155,931	154,372	148,781		51,670
20	琴参バス株式会社	瀬戸大橋線(坂出駅前～与島PA～JR児島駅)	倉敷市 坂出市	榎石島、岩黒島等島民の倉敷市児島地区への通勤・通学・通院・買い物等	12,441	18,069	28,945	28,656	31,219	△ 7.86	296.5
(1系統) 小計					12,441	18,069	28,945	28,656	31,219		296
合計 (20系統)					1,438,184	1,552,250	459,746	455,147	507,597		116,395

事業実施と地域公共交通計画等との関連について

令和8年1月16日

協議会名：	総社市地域公共交通会議
評価対象事業名：	地域間幹線系統確保維持国庫補助金
地域の交通の目指す姿 (事業実施の目的・必要性)	<p>人口減少やマイカー利用の増大により公共交通利用者は減少しているものの、運転免許を持たない高齢者や通学生など、いわゆる交通弱者の方々にとって公共交通は必要である。</p> <p>このうち、生活交通の確保・維持が困難な地域と広域行政圏の中心市町村又は県庁所在地を結ぶ基幹的なバス路線の運行を支援し、通勤、通学、通院及び買い物のために必要な移動手段を確保・維持することを目的とする。</p> <p>事業者は、これらの路線を維持するために利用促進、利便性向上及び経費削減等への取組を行っているが、なお、欠損を生じる見込みであるため、地域公共交通確保維持事業による支援を行う必要がある。</p>

令和7年度 地域公共交通確保維持改善事業 事業評価 総社市地域公共交通会議 地域公共交通計画(地域間幹線系統)の概要

協議会の構成員

住民代表、学識経験者、岡山県バス協会、備北バス、私鉄中国地方労働組合、岡山県タクシー協会、西日本旅客鉄道(株)、井原鉄道(株)、岡山運輸支局、岡山国道事務所、総社警察署、岡山県、総社市

協議会の開催状況

2 回 (うち書面審議0回)

【事業の目的・必要性】

・生活交通の確保/維持が困難な地域と広域行政圏の中心市町村を結ぶ基幹的なバス路線の運行を支援し、運転免許を持たない高齢者や通学生等の通院、通学及び買い物のために必要な移動手段を確保・維持する

【事業の区域】

・総社市全域

【事業の目標と効果】

(目標)

- ・運行を継続し、利用者の利便性を確保する
- ・輸送人員を増加させる(沿線人口増減率を加味)
- ・経常収支差額(経常費用－経常収益)を改善する

(効果)

- ・通勤、通学、通院及び買い物のための移動手段確保
- ・事業者と自治体との連携による利用促進、利便性向上

総社市	令和7年度分	
事業者数	系統数	車両減価償却費 車両数
1	1	0(0)

* 車両減価償却費車両数の()は、当該年度に購入した車両数(内数)

この1年間の 利用者・地域住民の意見の反映

○令和8年1月 利用者代表(公共交通に対する知識を有する方で、地域性を考慮して選定)から意見を聴取した。

聴取した意見は今後の取組への参考とする。

<意見>

・沿線人口が減少する中で、乗車人員の確保に努めている。またJRの運行停止時には地域住民の大切な移動手段となることから継続の要望がある。路線の維持には、相当の経営努力が必要だが、その上で、地域住民の理解と協力、各社と行政の連携が重要である。

事業の適切性

○計画どおり事業は適切に実施された。

目標・効果達成状況

○概ね計画どおり運行し、利用者の利便性は確保された。

○輸送人員の目標は達成できたが、燃料価格高騰の影響等により、経常収支差額の目標は達成できなかった。

今後の改善点

○利便性向上

- ・鉄道など他の交通モードとの乗継確保、接続改善
- ・運行実態を反映したダイヤ設定による定時制確保
- ・沿線状況の変化や利用者ニーズを反映したダイヤ設定

○利用促進

- ・関係自治体と連携した広報の実施
- ・沿線高校と連携した学生定期利用に向けたPR
- ・観光情報の提供、沿線観光施設やイベントとの連携

令和7年度 岡山県における地域公共交通施策

地方バス路線運行維持対策

国庫補助制度

【地域公共交通確保維持事業】

＜地域間幹線系統路線＞ 補助対象事業者：乗合バス事業者

- ①合併前複数市町村またがり
- ②計画輸送量15～150人／日
- ③運行回数3回／日以上
- ④広域行政圏の中心市町村等への需要に対応
- ⑤経常収益が経常費用の11/20以上

1 路線維持費補助 (20系統 116,395千円)

- ①対象経費：経常費用見込額－経常収益見込額
- ②限度額：経常費用見込額の9/20
- ③補助率：国1/2、県1/2

2 車両減価償却費等補助 (12両 16,413千円)

- ①対象経費：補助対象購入車両減価償却費及び当該購入に係る金融費用
- ②対象車両：主として地域間幹線系統路線を運行する車両
- ③車両購入限度額：ワンステップ型1,300万円 ノンステップ型1,500万円
小型車両1,200万円、
都市間連絡用車両1,500万円
- ④補助率：国1/2、県1/2

単県補助制度

【地域振興特定路線維持事業】

＜地域振興特定路線＞ 補助対象事業者：乗合バス事業者、市町村

- ①合併前複数市町村またがり、またはキロ程が35km以上
- ②輸送量50人／日以下
- ③運行回数10回／日以下
- ④平均乗車密度3人以上

1 路線維持費補助 (18系統 10,308千円)

- ①対象経費：経常費用－経常収益
 - ・他系統と50%以上競合する系統は、その競合区間の輸送量の合計が50人超又は運行回数の合計が10回超の場合は、当該区間は補助対象外
- ②限度額：経常費用の3/10
- ③補助率：県1/2、市町村1/2

現行

見直し

目標1 将来にわたり、安心快適に移動できる！

対象事業 雪舟くん

- ① K 運行システムの改善
- ② K 運行台数や料金等の見直し
- ③ 運行体系の見直し

- ① K 継続的な運行システムの改善
- ② K 運行台数や料金等の見直し
- ③ 運行体系の見直し

運行体系の見直し

その他の交通手段

④ K 既存交通手段の継続運行

目標2 市内外への移動を充実・強化する！

対象事業 鉄道

- ① K J R 桃太郎線の L R T 化
- ② K J R 桃太郎線 L R T 化による新駅設置

- ① K 鉄道事業者に対する利便性向上の要請**
- ② J R 桃太郎線の L R T 化に向けた継続協議
- ③ J R 桃太郎線 L R T 化による新駅設置

対象事業 **幹線路線バス**

④ K 市外と結ぶ一般路線バスの継続運行

目標3 誰もが外出しやすい環境を整備する！

対象事業 駅

- ① K バリアフリー化の推進
- ② K 駅前広場等の整備
- ③ K パーク＆ライド駐車場/サイクル＆ライド駐輪場の整備
- ④ K 公共交通情報の充実

- ① K バリアフリー化の推進
- ② K 駅前広場等の整備
- ③ K パーク＆ライド駐車場/サイクル＆ライド駐輪場の整備
- ④ K 公共交通情報の充実

目標4 観光客が楽しんで観光地を周遊することができる！

対象事業 観光客用移動手段

- ① K 総社流観光二次交通の導入
- ② K レンタサイクルの 推進

- ① K 観光タクシー等の促進**
- ② レンタサイクルの 促進

目標5 みんなが主体となって考え、改善する！

対象事業 交通環境改善

- ① K 総社市地域公共交通会議の充実
- ② 利用者満足度の向上

- ① K 総社市地域公共交通会議の充実
- ② 利用者満足度の向上

対象事業 新たな地域公共交通の創設

- ③ K 地域主体の公共交通の環境整備
- ④ グループでのタクシー利用環境の整備検討

- ③ K 公共交通利用促進のためのイベント開催**
- ④ K 運転免許証返納支援**
- ⑤ 運転手確保のための行政による広報**
- ⑥ K 地域主体の公共交通の環境整備
- ⑦ グループでのタクシー利用環境の整備検討

目標6 中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！

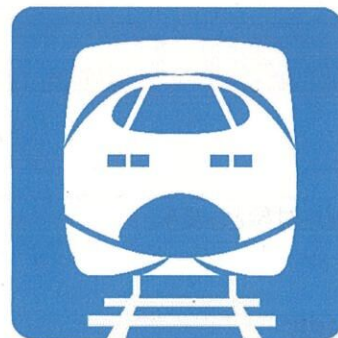
対象事業 歩道、道路

- ① K 商業施設等との連携
- ② K 南北方向整備予定路線の整備
- ③ K 歩行・自転車空間の整備
- ④ 自動運転の検討推進

- ① K 商業施設等との連携
- ② K 南北方向整備____路線の整備
- ③ K 歩行・自転車空間の整備
- ④ 歩いて楽しいまちなか空間の創出**
- ⑤ 自動運転の検討推進

総社市総合交通戦略

【概要版】



令和2年3月
(令和8年3月改定)

総社市

1. はじめに

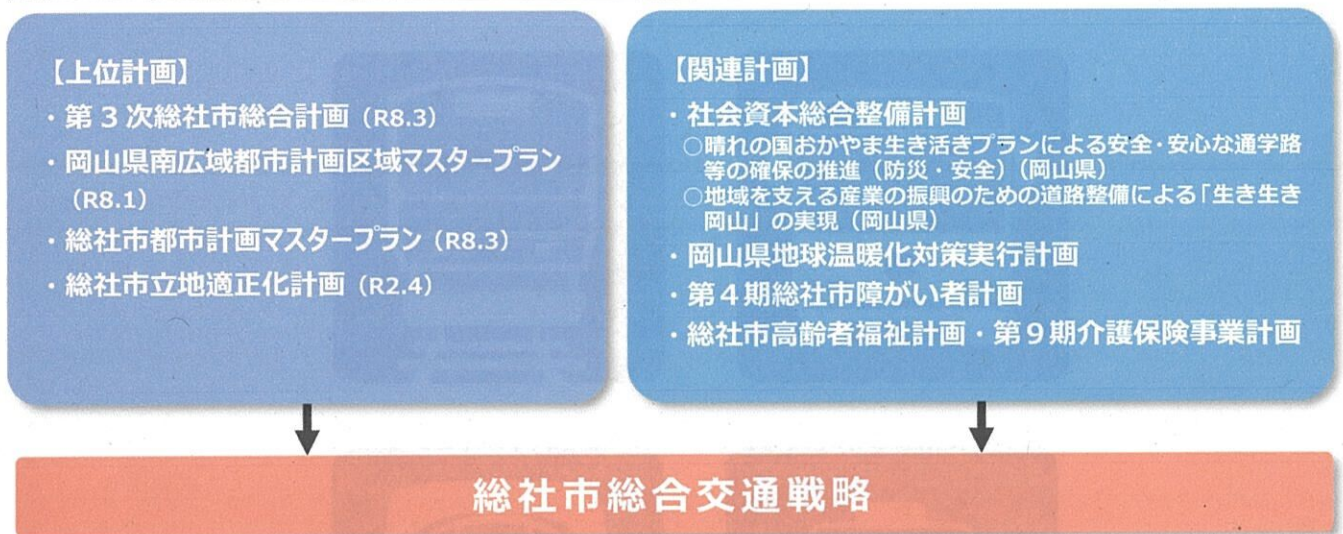
(1) 計画策定の背景と目的

本市が目指す「全国屈指の福祉文化先駆都市（総社市総合計画）」の実現に向けて、誰もが自由に移動できる公共交通の整備と持続可能性の確保は非常に重要な問題となっています。そこで、将来のまちづくりと連携し、公共交通の更なる利便性向上を図ることで、財政上の負担は生じるものの、外出機会の増加や移動利便性の向上により、健康増進や暮らしやすさの向上、地域活性化、さらには低炭素社会の実現など、市民にとってプラスの相乗効果に導いていく必要が生じています。

このような認識のもと、この度、総社市におけるこれからの地域公共交通のあり方や目標、取組みを定めた「総社市総合交通戦略」を策定いたしました。

今後は本計画のもと、まちづくりの各分野と連携しつつ、市民・来訪者の双方にとって使いやすく、将来にわたって持続可能な公共交通サービスの形成を進めてまいります。

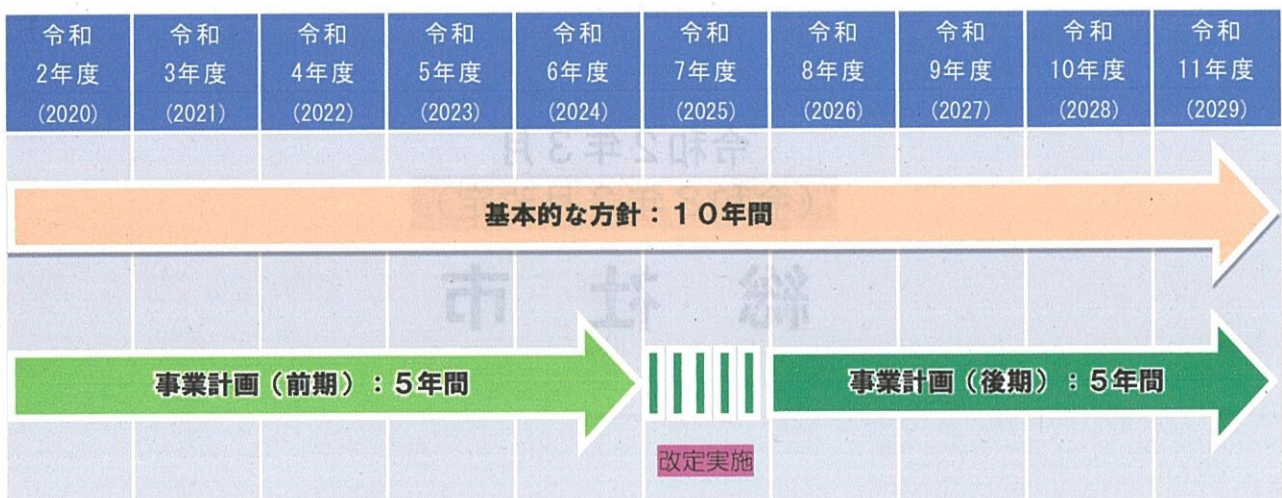
(2) 計画の位置付け



(3) 計画の区域

本計画は、総社市全域を対象とします。

(4) 計画の対象期間



2. 地域公共交通をめぐる課題

- 人口**
 - ・令和2年の人口は約6.9万人だが、令和32年には約6.2万人まで減少（将来推計）
- 高齢化**
 - ・令和2年の高齢化率は28.3%だが、令和32年には34.6%まで上昇（将来推計）
 - ・雪舟くんの利便性向上やバリアフリー化の推進など、高齢社会の移動環境づくり
- 都市施設**
 - ・都市施設が集中する拠点エリアへのアクセス性向上と中心部における回遊性向上
 - ・都市施設が集中する中心部で、安心して移動ができ、暮らすことのできる空間整備
- 観光**
 - ・点在する見所ある観光施設へのアクセス性向上
 - ・「吉備路自転車道」の有効活用
- 道路**
 - ・東西方向の路線に比べ、脆弱な南北方向の道路（整備）
- 鉄道**
 - ・基幹となる鉄道の運行本数増加、快適性向上やアクセス性向上
 - ・バリアフリー化、駐輪場・駐車場整備など、鉄道の利便性向上
- 雪舟くん**
 - ・予約型乗合方式の「雪舟くん」は、平日の8時～16時台のみ運行
 - ・予約が集中する時間帯を中心に生じる予約お断りの解消
 - ・運行日や運行台数、時間帯の拡充、利便性の向上などニーズに合った運行改善
- 外出状況**
 - ・地域と連携して柔軟な運行が可能な新たな公共交通の導入
- 外部環境**
 - ・バス・タクシーの運転手不足（全国的な傾向）への対応

現在の総社市における公共交通ネットワーク

鉄道はJR 伯備線、JR 桃太郎線及び井原鉄道井原線の3路線が運行されています。一方、バス路線は運行路線や運行本数が限られています。そのため、予約型乗合方式による総社市新生活交通「雪舟くん」が市内中心部の共通エリアと市内4つの区域（東部、西部、池田、昭和）に分けて、市内全域をカバーする形で運行しています。



3. 本計画の理念と目標

(1) 本計画の理念（総社市の公共交通の理念）

暮らしやすいまちの実現に向けた地域交通体系の構築
～「全国屈指の福祉文化先駆都市」を支える交通まちづくり～

(2) 本計画における目標

目標 1 将来にわたり、安心快適に移動できる！
～各鉄道駅への二次交通の充実による安心・快適な移動の確保～

将来にわたる拠点間の移動手段の確保や各鉄道駅への二次交通の充実を目指すとともに、中心部では安心・快適な移動空間の整備を行うことでにぎわいのある魅力的なまちづくりの礎とします。

目標 2 市内外への移動を充実・強化する！
～本市の基幹・鉄道の強化による移動性向上と交流拡大～

JR 伯備線及び JR 桃太郎線の利便性向上を図ることにより、生活圏が隣接する地域において、市域を越えた交通体系の構築を図っていきます。

目標 3 誰もが外出しやすい環境を整備する！
～ユニバーサルデザイン化による使いやすさ向上と利用促進～

鉄道、バス、雪舟くんといった身近な公共交通や福祉交通が全ての人にとって使いやすいものとなるために、施設のバリアフリー化はもとより、交通情報の充実を図ることで、誰もが外出しやすい環境を整備します。

目標 4 観光客が楽しんで観光地を周遊することができる！
～レンタサイクルの促進や観光タクシー等の促進による観光文化の振興～

市内バス・タクシー事業者や観光関連団体等との連携により、レンタサイクル事業者や JR 「観タクン」等のタクシー事業者への情報提供等により、観光客が楽しんで自由に周遊できる環境を整えていきます。

目標 5 みんなが主体となって考え、改善する！
～市民・交通事業者・民間企業・行政の連携による公共交通の継続的改善～

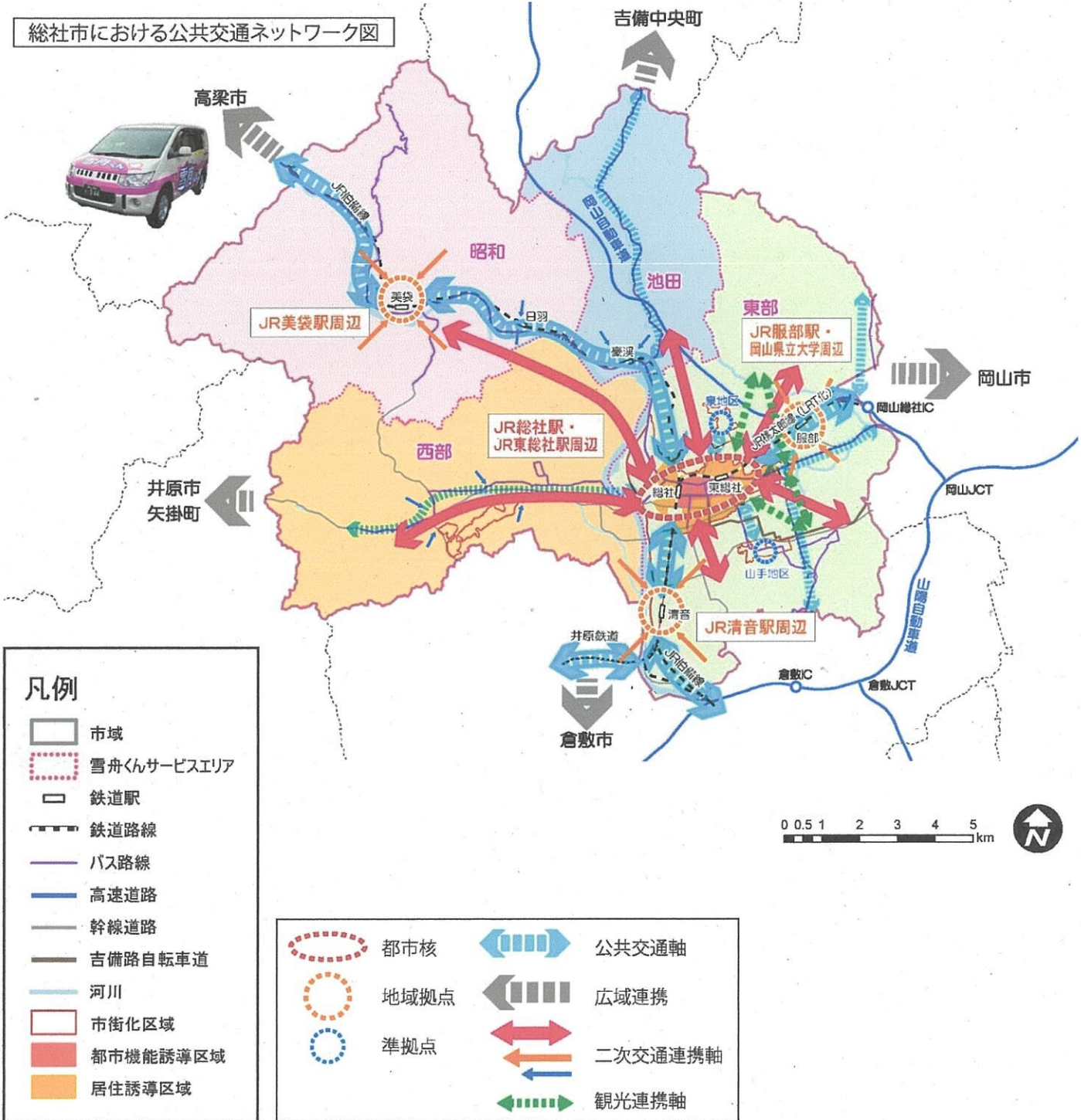
市民・交通事業者・民間企業・行政が三方一両損の精神を持ち、それぞれの好循環に繋げることができるよう協働で公共交通の再生・活性化に取り組んでいきます。

目標 6 中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！
～幹線道路や歩行者空間の整備により地域の経済活動や健康づくり、交通安全を支え

魅力的なまちづくりと公共交通の利用を連動させるため、商業施設等と連携し、公共交通利用者向けの特典・サービスを拡充していくとともに、安心・安全な交通環境の確保に向けた幹線道路・歩行空間の整備を推進します。また、関係機関と連携し、自動運転の公共交通への導入等について検討を進めていきます。

(3) 本戦略における将来の公共交通ネットワーク

鉄道を軸として、総社市新生活交通「雪舟くん」や新たな二次交通により、まず駅まで、さらに中心部まで結ぶ公共交通ネットワークの構築を目指します。



4. 目標実現に向けた事業内容と業績評価指標

(1) 目標実現に向けた事業イメージ

6つの目標の実現に向け、実施すべき事業のイメージを示します。

目標 1. 将来にわたり、安心快適に移動できる！

事業対象	雪舟くん
①継続的な運行システムの改善	<ul style="list-style-type: none"> 共通エリアの見直しや最適なエリア区分への改善を進めます。 継続的な運行の実現のため、利用方法や運行エリアなどの説明と市民ニーズ調査により、利用者拡大に努めていきます。
②運行台数や料金等の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 予約お断りゼロを目指すため、運行台数、運行時間帯、委託料、さらに将来にわたり持続可能な利用料金について、市民の声を踏まえ関係事業所等と見直しの協議を進めます。
事業対象	運行体系の見直し
③運行体系の見直し	<ul style="list-style-type: none"> 各鉄道駅への二次交通の充実及び中心部における回遊性向上を図るため、定時型路線の導入等について、路線数や経路、予約型、国県補助など現行の路線の統廃合を含め、制度設計のための検討協議を進め、運行体系の見直しを図ります。
事業対象	その他交通手段
④既存交通手段の継続運行	<ul style="list-style-type: none"> 「新本線」、「雪舟くん・倉敷中央病院往復便」、タクシー、福祉有償運送、スクールバス、総社市版ライドシェアについては、継続的に運行します。



目標 2. 市内外への移動を充実・強化する！

事業対象	鉄道
①鉄道事業者に対する利便性向上の要請	<ul style="list-style-type: none"> JR西日本や井原鉄道に対し、利便性の向上に資する施設整備等を継続的に働きかけます。
②JR桃太郎線のLRT化に向けた継続協議	<ul style="list-style-type: none"> JR桃太郎線のLRT化については、継続的に協議を行います。
③JR桃太郎線LRT化による新駅設置	<ul style="list-style-type: none"> 新駅を設置し、駅の利用圏域を拡大することで、鉄道の利便性向上を図ります。
事業対象	幹線路線バス
④市外と結ぶ一般路線バスの継続運行	<ul style="list-style-type: none"> 「地頭～岡山線」及び「総社南高北・総社駅～妙仙寺・宮前線」については、継続運行とします。



目標 4. 観光客が楽しんで観光地を周遊することができる！

事業対象	観光客用移動手段
①観光タクシー等の促進	<ul style="list-style-type: none"> 鬼ノ城や備中国分寺、宝福寺などの観光文化施設にインバウンドを含め県内外から多くの観光客に訪れてもらえるようJR「観タク」等のタクシー事業者への情報提供等を行い、関係機関と協働し実施します。
②レンタサイクルの促進	<ul style="list-style-type: none"> 吉備路自転車道の沿線に点在する史跡や古墳、自然、日本遺産に指定された史跡などを楽しんで周遊できるように、レンタサイクルの充実を図ります。

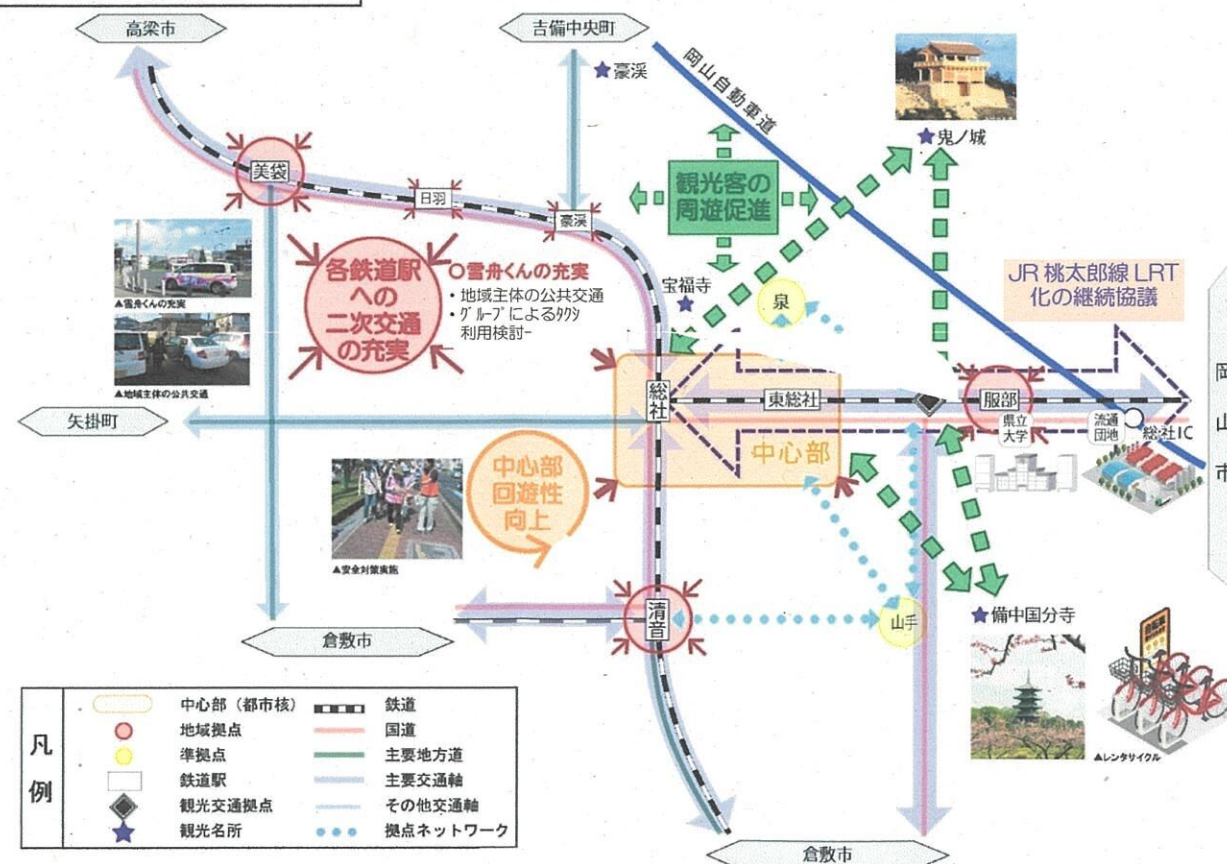


目標 3. 誰もが外出しやすい環境を整備する！

事業対象	駅
①バリアフリー化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 駅等の公共交通施設が、誰にとっても利用しやすいものとなるようバリアフリー化を推進します。
②駅前広場等の整備	<ul style="list-style-type: none"> 各駅において、駅前広場や自転車、歩行者等も安全に利用できるアクセス道路の整備等により、より乗り継ぎやすくアクセス性の高い駅を目指します。
③パーク＆ライド駐車場/サイクル＆ライド駐輪場の整備	<ul style="list-style-type: none"> 各駅において、パーク＆ライド駐車場/サイクル＆ライド駐輪場の整備等により、より利便性の高い駅を目指します。
④公共交通情報の充実	<ul style="list-style-type: none"> 施設案内表示、公共交通運行ダイヤ、乗り場情報の充実やリアルタイム運行情報・所要時間の見える化など、誰もが目的地に出かけやすい環境整備を図ります。あわせて、総社を訪れる方々のため、観光や沿線へのPRマップなどの充実を図ります。



総社市総合交通戦略イメージ図



目標 6. 中心部の魅力UPにより、健康づくりや交通安全にもつなげる！

事業対象	歩道、道路
①商業施設等との連携	<ul style="list-style-type: none"> 魅力的なまちづくりと公共交通の利用を連動させるため、商業施設等と連携し、公共交通利用者向けの特典・サービスを拡充していきます。
②南北方向整備路線の整備	<ul style="list-style-type: none"> 市の東西に国道180号バイパスが整備される中、道路ネットワークの構築による都市内移動の円滑化や中心市街地の渋滞緩和を図るため、南北方向整備路線の整備を進めます。
③歩行・自転車空間の整備	<ul style="list-style-type: none"> 交通弱者である子ども、高齢者、障がい者の方にとっても、安全・安心な交通環境の確保のため、歩行・自転車空間の整備を進めます。
④歩いて楽しいまちなか空間の創出	<ul style="list-style-type: none"> 都市中心部や生活拠点において、歩行者が「歩いて楽しい」と感じられる空間の創出を目指します。具体的には、歩行者ネットワークの強化、滞留・交流を促す広場や緑地の配置、バリアフリー化の推進などについて、関係機関との協議を進めていきます。
⑤自動運転の検討推進	<ul style="list-style-type: none"> 自動運転技術の本格的な実用化に向け、公共交通への導入やカーシェアリング、グリーンスローモビリティといった交通施策について、関係機関と連携し検討を進めます。



実施主体 (◆:主, ◇関連)				業績評価指標	計画開始時 (平成30年度)	中間見直し時 現況値(令和6年度)	目標値 (令和11年度)
行政	市民 地域	企業	交通 事業者				
◆	◇		◆	登録者数	18,767人	22,060人	26,000人
◆	◇		◆	利用者数	214人/日	178人/日	250人/日
◆	◇		◆	予約お断り件数	約15件/日	約5件/日	0件
◆	◇	◇	◆	市内路線バスに係る市の財政負担額	—	842万円/年	800万円/年
◆	◇	◇	◆	市内路線バスの収支差	—	▲3,401万円/年	▲3,401万円/年
◆	◇		◆	利用者数 JR西日本：総社市内 7駅	JR西日本： 14,926人/日	JR西日本： 13,998人/日	JR西日本： 15,000人/日
◆	◇		◆	市内路線バスの利用者数 (新本線含む)	—	84人/日	100人/日
◆	◇		◆	鉄道利用満足度	29.8% (平成26年 第2次総社市 総合計画策定のための アンケート調査結果 鉄道・バス満足度)	33.3% (令和6年第3次総社市 総合計画策定のための 市民満足度調査 公共交通の利便性の向上 に関する満足満足度)	50%
◆	◇	◆					
◆	◇	◆					
◆	◇	◆					
◆		◇	◆	観光タクシー運行件数	129件/年 (総社市観光協会企画分は R1年度の件数を計上)	11件/年	250件/年
◆	◇	◇	◆	総社市地域公共交通会議の 開催回数	年1回	年2回	年4回 (計画期間中)
◆	◆	◆	◆	雪舟くんの出前講座開催回 数	—	年2回	年2回
◆	◆	◇	◆	運転免許証返納率	—	1.90%	2.00%
◆	◆	◇	◆	新規創設数	新規	5団体 (うち総社市版ライドシェア 登録3団体)	10団体
◆		◇	◆	商業施設等との連携	1企画/年	1企画/年	2企画/年
◆				南北方向整備予定路線の 整備率	0%	59%	100%
◆	◇			市民の外出率	平日：78.4% 休日：60.6% (H27年度)	平日：77.4% 休日：51.0% (R3年度、コロナ禍の数値)	平日：80.0% 休日：70.0%

実施スケジュール ● 検討・調整: 施策実施に向けて検討や関係機関との調整を実施(→)

● 実 施: 施策実施(⇒)

● 継 続: 計画期間外(概ね10年以降)も検討・調整や施策実施を継続(■→)

5. 計画の推進に向けて

(1) 計画の評価・改善

① PDCAサイクルによるスパイラルアップ

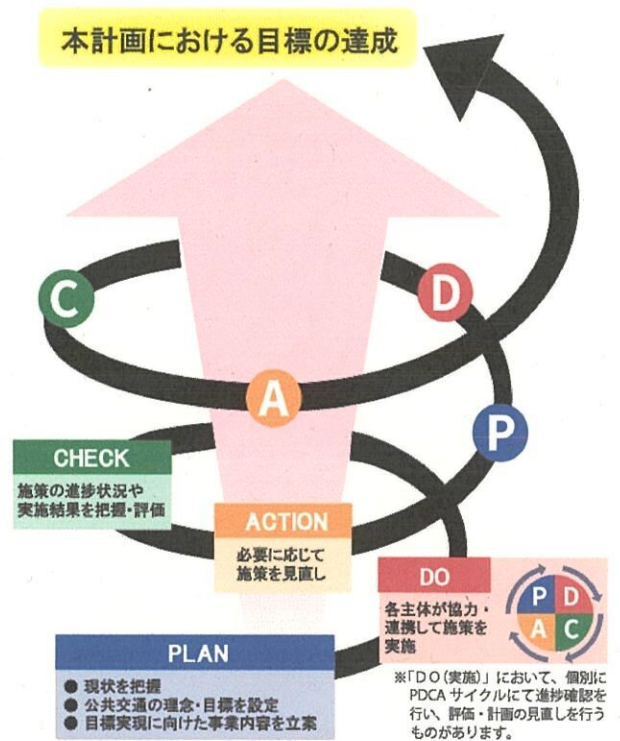
本計画は、計画を策定し記載事業を実施したら終了というものではなく、「みんなが親しみ、みんなで育む地域公共交通」の実現のためには、事業の進捗状況や効果を検証し、計画の内容を絶えず見直していく必要があります。

具体的には、「計画（PLAN）」「実施（DO）」「評価（CHECK）」「改善（ACTION）」の4段階のサイクル（PDCAサイクル）により、市民や公共交通事業者の意見を反映させながら、より地域のニーズに合った公共交通へと改善を進めていきます。

そこで、「総社市地域公共交通会議」を活用し、各事業の進捗状況について、毎年、把握を行い、必要に応じて計画の改善を図ります。また、計画見直しの状況は随時公開し、市民との情報共有を図ります。

② 評価・改善のスケジュール

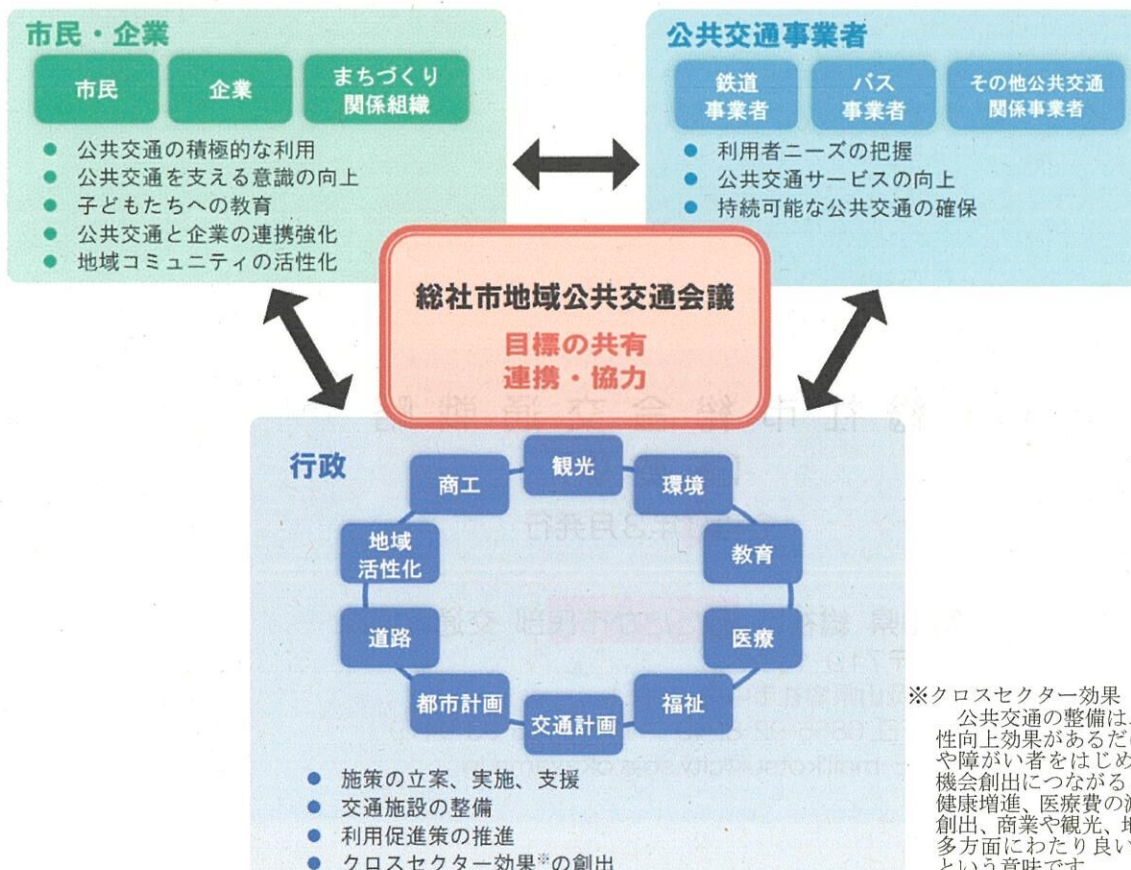
進捗状況及び効果の評価は毎年行い、その評価結果を踏まえた上で、必要に応じて5年経過後（中間時）に事業内容の見直しを行います。また、10年後の計画期間満了時には、本計画の改定を行います。



(2) 計画の推進体制

本計画は、市民・企業、公共交通事業者及び行政の三者で目標を共有し、各自がそれぞれの役割を果たしつつ、相互に連携・協力しながら推進します。

また、庁内においては、交通関係部局のみでなく、観光、福祉、環境などの各部局が連携し、全庁横断的な協力のもとで計画を推進します。



書型・面割の画割（Ⅰ）

1 P D C A サイクルによるスライディング
1. 現状の把握と課題の抽出
2. 将来の展望と目標の設定
3. 施策の立案と実施の計画
4. 評価・見直しと改善のサイクル

書型・面割の画割（Ⅱ）

1. 現状の把握と課題の抽出
2. 将来の展望と目標の設定
3. 施策の立案と実施の計画
4. 評価・見直しと改善のサイクル

編み直しの画割（Ⅰ）

1. 現状の把握と課題の抽出
2. 将来の展望と目標の設定
3. 施策の立案と実施の計画
4. 評価・見直しと改善のサイクル

総社市総合交通戦略 【概要版】

令和8年3月発行

岡山県 総社市 **あたたか市民部** 交通政策課
〒719-1192
岡山県総社市中央 1-1-1
TEL:0866-92-8249 / FAX:0866-93-9479
E-mail:kotsu@city.soja.okayama.jp